



ほのぼの



センター専属キャラクター
こころちゃんとゆたかちゃん



センター長ご挨拶



認知症疾患医療センター
センター長
谷内 弘道

アルツハイマー病は「早期診断・早期治療が重要」と言われています。私の治療経験でも、軽症の患者さんの方が中等度や高度の患者さんよりもアルツハイマー治療薬によって進行を長く予防できるという印象を受けています。それでは、どのようにして早期（物忘れが軽い段階）に診断するのでしょうか？現在は、記憶力検査、CTやMRIなどの画像検査、SPECTという脳循環を調べる検査などによって診断するのが一般的です。それでは、『物忘れが出現する前に、将来アルツハイマー病になるかどうかを判定できないのでしょうか？』この方法を発見するために、多くの研究者が努力しています。しかも痛みを伴わずに、そして安い料金で検査できるようにと・・・

ところで、今年1月の新聞に「血液一滴でアルツハイマー病の診断ができる」という記事が掲載されました。血液中の微量のアミロイドベータ蛋白（アルツハイマー病の原因と考えられている蛋白）を測定後10分でアルツハイマー病の判定が可能になるという内容で、しかも、判定までに数時間かかるものの現在すでに血液中のアミロイドベータ蛋白を測定することが可能ということでした。この記事を目にした多くの方が驚かれたでしょうが、実はこの検査方法、ある研究施設内だけの話であり、われわれが通常の診療で行うことができる検査ではありません。しかも、血液中のアミロイドベータ蛋白は脳神経由来ではないので、髄液検査で脳神経由来のアミロイドベータ蛋白を測定する方法と比較して、診断精度がかなり低いであろうと考えられています。でも、背中に長い注射の針をうたれて髄液を抜く検査は怖いし・・・

そこで、APL1 β という脳神経に特異的に発現する蛋白を血液から抽出して、物忘れが出現する前にアルツハイマー型認知症になる危険があるかどうかを調べる検査方法が実用化に向けて開発中だそうです。どうやら、自分が将来アルツハイマー型認知症になる危険があるかどうかを調べる時代に近づいているようです。



まるまる

「認知症の〇〇」



☆今回のテーマは「認知症の若年化」☆

以前なら認知症といえば高齢者だけの病と思われていましたが、最近では働き盛りの若い人たちでも認知症になることがあり、18歳から64歳で発症する認知症を若年性認知症と呼んでいます。

① 若年性認知症の初期症状

認知症の症状として、記憶力の低下、理解力や判断力の低下、妄想・幻覚などがありますが、なかでも初期症状として現れるのが記憶力の低下や判断力の低下です。40代くらいになると、年のせいかな?と勘違いしてしまうケースが多いようです。

② 若年性認知症の予防

若年性認知症の予防には食生活の改善はとても大切です。緑黄色野菜やDHAを多く含む青魚などを食生活に取り入れて若年性認知症を予防していきましょう。

また、初期症状を見逃さないためにも、定期的な脳の検査は効果がありますので、検査を受け、脳腫瘍や脳梗塞などの脳疾患を早期発見・早期治療を行うことも予防につながります。

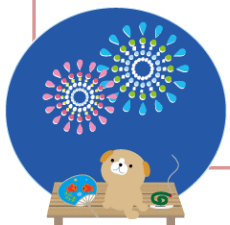
③ 若年性認知症の原因となる疾患

原因となる疾患にはアルツハイマー病の他に、脳血管障害、脳腫瘍などの脳疾患による後遺症、頭部外傷による後遺症、薬物やアルコールの依存症などがあります。若年性認知症はうつ病の症状と似ている部分もあり、若さからうつ病ではないかと診断されてしまうこともあります。

色々な原因が考えられる若年性認知症ですが、原因を突き止めるのはなかなか難しいことですので、信頼のおける医師のもと、適切な診断と治療を受けることが大切です。

アルツハイマー型若年性認知症は気付かないうちに発症し、長時間かけてゆっくりと進行していきます。ごく初期には頭痛やめまい、不眠、不安感、抑うつ状態といった症状があるので、早期発見するためにも、こういった症状がある場合は軽視せず、専門医で検査を受けるようにしましょう!!!

次回は「認知症の理解」についてお話しします。

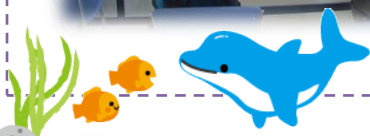


活動報告

ほのぼの会（6月27日・7月25日）

6月27日はセンター職員による「上手な医療の利用の仕方について」、7月25日は谷内センター長による「認知症の症状について」の講座が開催されました。

普段なかなか聞けない話を先生に尋ねることができ、また、ご家族同士で工夫や知恵を出し合うことで、日ごろの悩みが解消できる機会となりました。興味のある方はどなたでも参加できますので、是非ご連絡下さい。



出前講座（7月15日）

—精神保健福祉士 藤村・臨床心理士 川崎参加—

函館市中道第2町会地区地域ケア会議に参加し、「認知症の初期症状、在宅生活への支援方法、在宅生活の限界等」について、お話させていただきました。

地域で認知症の方を見守るために、地域の関係機関が連携し、地域課題の把握をするための話し合いが行われました。この会議に参加することができて、病院の中だけではわからない地域の状況を知ることができ、大変良い機会になりました。中道町内会の皆様ありがとうございました。



出前講座（7月25日）

—精神保健福祉士 佐藤・坂井参加—

地域包括支援センターあさひ主催健康教室にて「知ってますか、軽度認知障害」と「ちょっと豆知識・認知症について」と題しお話をさせていただきました。最近注目されている軽度認知障害について、参加されたみなさんは熱心にメモされ、チェックシートでは笑いもあり、終始集中して話を聞いて下さいました。健康教室に参加されているということでみなさんいきいきとしており、私たちも元気をいただきました。西部地区にお住まいの皆さんありがとうございました。





お知らせ



ほのぼの会

(地域向け介護講座・家族会)

開催日:平成26年9月26日(金)

時間 :14:00~15:00

内容 :グランドサン亀田見学

※介護老人保健施設

(在宅復帰を目指したリハビリ施設)

開催日:平成26年10月24日(金)

時間 :14:00~15:00

内容 :さくら館見学

※特別養護老人ホーム

(常時介護が必要な方の入所施設)



毎回テーマが変わり、茶話会の時間も設けております。参加希望の方は、認知症疾患医療センターへご一報下さい。



講演会

『アルツハイマー病講演会』

開催日:平成26年9月21日(金)

時間 :13:30~15:00

内容 :認知症の人と向き合う

講師 :木之下 徹(こだまクリニック 院長)

場所 :函館国際ホテル

『若年性認知症の会』

開催日:平成26年10月21日(金)

時間 :13:10~14:40

内容 :「若年性認知症の人と共に歩む」

講師 :谷内 弘道

(亀田北病院認知症疾患医療センター センター長)

場所 :函館大学

※ 皆様のご参加をお待ちしております。



出前講座のご案内



認知症疾患医療センターでは、認知症の疾患・治療・予防・介護など、認知症に関する様々な出前講座を開催しております。皆様の地域で、認知症について気軽に相談できる機関として、日頃の疑問を解決できる講座を開催しますので、是非ご利用していただければと思っております。

認知症疾患医療センターの医師・看護師・精神保健福祉士・臨床心理士が無料でお伺いします。ご要望のある方はご一報いただければと思います。

編集後記

認知症対策で有効な取組みで重要だと言われるのは正しい食生活、適度な運動が挙げられます。ただこの時期意識して欲しいのは「水分摂取」です。夏も本格的になり気温も急上昇しており、体内の水分が減少します。熱中症にならないよう水分を十分補給し取り組んでいただければと思います。元気に暑い夏を乗り切りましょう。

季刊誌担当 藤村・坂井・川崎

【発行元】

医療法人 亀田病院 分院 亀田北病院

認知症疾患医療センター

〒041-0802

函館市石川町 191 番地 4

センター専用フリーダイヤル

0120-010-701

FAX専用ダイヤル

0138-46-5505

ホームページ

URL

<http://www.hakodate-kameda-hp.com>